
世界の鎖

レイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の鎖

【Nコード】

N8116Z

【作者名】

レイン

【あらすじ】

ある日、突然異世界に召喚された専門学生、冴木漣はどこにでもいる極普通の二十歳の女性だった。異世界の王国ナイトレインで国王の花嫁になれといわれ戸惑うが、元の世界に未練の薄い彼女はあらゆる条件と交換に”花嫁候補”となる事を承諾する。

詳細

舞台

ロストテクノロジー

・魔法と遺失技術が発達した異世界ユーリア。古代遺跡より発掘された遺失技術は太古の技術であり。遺失技術に魔法を付与することにより、オーバーテクノロジーを使用している。

ユーフェリア詳細

・魔法文明の発達した世界であり、生活レベルとしては中世ヨーロッパ並みだが、魔法を駆使する事により現代世界よりもある意味便利な世界。

・魔法には属性が存在し人々は主に火、水、風、地に属し極稀に至宝属性と呼ばれる、薄暮の属性と暁の属性を持つものが存在するが、数千年前からこちら、薄暮の属性を有する者は確認されていない。

・属性の確認は簡単な物で、個人の髪色を見れば一目でわかる。およそ10歳前後で髪色が変化し、力が強い者ほど属性色が濃くなると言われている。

・個人の有する属性が一番強いが、他の属性魔法も使用できる。

ex、火の属性者 赤・カーマイン等 桜色・サーモン等

水の属性者 青やシアン等 白藍色・ベビーブルー等

風の属性者 緑やボルト等 秘色・シャルトルーズ等

地の属性者 茶やチョコレート等 小麦色・ベージュ等

登場人物

・冴木 漣（20）

ある日突然、召喚により異世界に連れてこられた専門学生。パティシエの卵であり趣味と実益を兼ねた職に就きたいと考えていた。異世界で薄暮の女神、国王の花嫁、と呼ばれ困惑する。

・アベル・ナイトレイン（25）

異世界ユーフェリアに存在する王国ナイトレインの若き国王。王位に就いて僅か一年で腐敗した貴族社会を肅清し、正常化した賢王。銀色の髪と冬の湖のような瞳をした麗人。暁の属性と水の属性を有している。

・クライブ・ブランドナー（28）

ナイトレイン王国の国王付き近衛隊長。アベルとは幼馴染の関係でもあり身分を超えた友人の関係を築いている。マローネ色の髪と鶯色の瞳をした地属性の青年。

・ランスロット・デイケンズ（35）

ナイトレイン王国王宮魔法師長。ユーフェリアの至宝と呼ばれる世界最高峰の魔法師でありアベル至上主義者。漣を召喚した張本人であり、申し訳ない気持ちをもってはいるものの、アベル至上主義であるが故に見ないふりをしている。濃いシアン色の髪と瞳をした中世的な美貌の持ち主。

・ヒューバート・デニス（68）

王宮に勤める使用人を一手に纏める侍従頭。元は王家の専属家令だったがその腕を買われ使用人たちの長となる。私生活では愛妻家であり6人の息子を持つ家庭人。アベルを主人であると同時に息子のように思っており常にアベルに付き従う。妻は侍女頭アンナ。アイヴィーグリーンとの髪と瞳をした風属性者。

・アンナ・デニス（62）

侍従頭ヒューバートの妻であり6人の子供の母の経験を買われたアベルの元乳母。一度は老齢を理由に乳母を引退した物の、人柄と能力を買われ侍女頭として復帰。温和で常に笑顔を絶やさない人物だが怒らせるとランスロットですらたじたじとなる。

・アリス・リデル（15）

成人を迎えたばかりの侍女見習い。明るくおしゃべりで空想好きな少女で侍女たちのムードメーカー、好奇心が強く何かとドジな面もあるが異世界からやって来たヒロインに憧れており、3侍女の中では最も忠誠心が高い。調味料などを専門に扱う商家。桜色の髪と瞳

からわかるように、魔力はさほど強くない。

・エイミー・コレット（19）

ディケンス家の分家筋にあたるコレット子爵家の三女。物静かで思量深く物知りな女性。多くを語る事はしないものの、必要な時にはちゃんと助言をする。王宮魔術師と親戚筋でありながら魔力が弱い事にコンプレックスを持っているため、それを補おうと勉学にはげんでいる節がある。白藍色の髪と瞳をしている。

・シンシア・ラドリー（23）

3侍女の中では最年長となる侍女。ともすれば天然と取られがちなほどおっとりとした女性で、庶民の出であるにも拘わらず貴族の子女が好む音楽や刺繍、お茶に精通している。男嫌いな節があり、侍女の仕事も普段は女性しかいないということから選んだ。老人や子供、気を許した男性以外には普段からかんがえられぬほど辛辣になる。ベージュ色の髪と瞳をした長身の女性。実家は貿易を営む商家。

詳細（後書き）

登場人物とかの紹介ですが、あくまで作者の覚書です。

プロローグ

この世界は主神の末娘、女神ユーリアの為に創造されたという。
肥沃な大地と咲き乱れる花々。

この地で女神ユーリアは育った。

しかし、ある日この世界で”大災厄”アルマゲドンと呼ばれる神同士の争いが
起り、その争いに巻き込まれたユーリアは邪神の呪いにより命を落
とす。

愛娘失い嘆き悲しんだ主神は、一筋の希望に縋り、この地に住む
人々に魔法の力を与えた。時が経ち、呪いの効力が薄れたその時、
再び女神ユーリアがこの地に現れるようにと……。

そうして神々の王は愛する末娘のため、この地に様々な加護を与
えユーリアの魂を宿した者が現れるのを長く見守り続けいるという。

【伝承神記 愛しい子の章より】

第一話

この世界には5つの大陸と6つの海があった。

その大国の1つ、神聖ナイトロード王国では今まさに国の存亡をかけた、召喚の儀が行われていた。ここに至るまで、国の要たる大臣や神官を交え何日にも渡る協議が続けられ、ようやくこの日にこぎつけたのは、偏にこの国の主である国王の伴侶を召喚するためである。

この世界は神の加護を受けた世界。

古の昔、この世界は邪神の呪いにより、魔物が徘徊するようになってから人は滅ぶ寸前まで追い込まれた。しかし神より魔法の力を授けられた人々は、魔法を駆使し何とか魔物やその悪しき力を退けたのだ。

この力を持続させるためには、国の主が数百年ごとに異世界から花嫁を召喚せねばならない。

それは偏に古に神の愛した末娘、ユーリアの再来を望む神に対する感謝の意だった。

が、古の戦いから数千年、未だ神の愛し子ユーリアは現れていない。そして今年には神聖ナイトレイン王国が神の娘を召喚する。がこの古き習慣に反対する者がいた。

他でもない、異世界の者を娶る事となる国王本人だ。

国王は問う、『古き神の習慣になんの意味があるのか？』と。神官は答える、『神より与えられし加護のため神の娘が必要だと。』

話し合いは平行線の一途をたどった。異世界の娘など必要ないと言い張る革新的な王と、神の望みを叶えなければ加護が失われると諭す保守的な神官。

幾日にも渡った話し合いの末、神官たちの言に折れたのは王の方だった。

『これより、花嫁の召喚を始めます。宜しいですね、陛下』
『ああ』

夕闇せまる頃、ナイトレイン王国の若き国王であるアベル・ナイトレインは、召喚の儀が行われるにあたり正装に身を包んでいた。

スラリとした均整のとれた長身と、筋骨隆々とはいえない物の常

に鍛錬を欠かさなかつたためか細身のしまった身体をしていた。キメの細かい雪花石膏膏の肌は艶めかしく、立っているだけでも男女関係なく人を惹きつける魅力の持ち主だった。

その魅力の1つがその髪にあった。月の光を集めたような銀の髪は、宝石の粉を散りばめたように輝き、しっとりとした艶を保っている。

そして最大の魅力と言っても過言ではない青い瞳。冬の湖を模したような青い瞳は、理知的な光と清澄な色を称えている。

アベルは年若い侍女達が、自分を熱い視線で見つめていることも気にせず、淡々と事を進めた。今回の儀式を行うに当たって、実質的に実務を行う魔法師長官が再度確認する。

この世界にあっても召喚陣を起動できるほどの魔力のある者は少ない。魔力の貯蓄量というのは個人によってその量が異なる、貯蓄量が多ければ多いほど効果の大きい魔法が使えるし、少ないと然りだ。

その中でも、アベルの目の前にいる魔法師長は別格だった。たった一人で魔方阵を起動させる魔力は至宝と呼ばれるのに相応しい魔法師であった。

やがて、神殿内に灯された明かりが一つ、また一つと消されてゆく。

『では、これより儀式に入りたいと思います』

神官の一人の宣言により、いよいよ異世界の花嫁が召喚されようとしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8116z/>

世界の鎖

2012年1月9日23時52分発行